

# 令和5年度 白金小学校 学校評価総括表

教育目標	「人とのつながりの中で豊かに学び自らの未来を拓く児童の育成」	今年度の総括的自己評価
<p>本年度の重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①人との心をつなぐ「話し合う力」を身につけた子どもの育成</li> <li>②児童の学習意欲が高まる「わかる楽しい授業」の実施</li> <li>③互いの違いを認め合い「差別やいじめを許さない学級集団」の育成</li> <li>④個々の学びを支える「特別支援教育」の充実とともに支え合い学び合う子どもの育成</li> <li>⑤スピード感のある組織的な「生徒指導」の推進</li> <li>⑥子どもがゆとりをもって学べる「学校行事」のスリム化と「教育課程」の見直し</li> <li>⑦教職員の心身の健康を守り、子どもと向き合う時間を増やす「業務改善」の推進</li> <li>⑧「保護者どうしのつながり」を強める学校行事・教育活動の実施</li> <li>⑨保護者・地域住民の更なる参画による「学校教育力」の強化</li> <li>⑩「コミュニティ・スクール」学校運営協議会各部会による活動の推進</li> </ul>	<p>コロナ禍を経て取り組んできた学校改革をさらに進めた。家庭訪問を廃止し教育相談日を設け、参観日の一部削減、選択制個人懇談の実施、学校行事に係る準備、練習にかかる時間の縮減、それに伴う行事内容の見直しを継続して行った。保護者の理解を得ることができているが、保護者と教職員の連携という点については一部改善をしていく必要がある。教職員の極端な繁忙状態が緩和され、生み出された時間で児童一人ひとりに向き合う時間増えたり、「わかる楽しい授業」を行うための教材研究を行う時間も部分的ではあるが確保できるようになってきた。</p> <p>児童の話す力を高めるために日ごろの授業の中でペアトークなどグループでの話し合い活動を取り入れ、校内研究にも位置づけてきた。今後も児童のコミュニケーション力を高めていきたい。授業が分かりやすく学校生活が楽しいと感じている児童が多くいるが、個別の学習支援が必要な児童も相当数おり、放課後学習以外にも、授業の質の向上、朝学習の充実など学校全体の学力向上に取り組む必要がある。</p> <p>本年度も病気休暇を取得する教員が複数あり、代替教員が長期間配置されない状況の中で、教職員が自らの空き時間を提供して授業にあたることが続いた。教職員は助け合い力を合わせて、困難な状況をチームワークでよく乗り切ってきた。来年度以降、高学年で行っている教科担任制を中学年にも拡大し、担任がすべての授業を行うのではなく複数の教員で授業を進め、学級を指導していく体制を整えていきたい。</p> <p>この2年間、保護者や地域と連携して「人とのつながりの中で」子どもたちに豊かな学びの環境を提供できるように努めてきた。学校を支援いただくボランティアの数は2年間で2倍になった。学校運営協議会では学校が抱える課題について熟議を重ねていただき、学校経営の方向を定める指針と成り、強い支えとなった。保護者の学校教育への積極的な参加や保護者どうしのつながりを強めることについては課題があるため、PTA、学校運営協議会と連携した取り組みが必要である。</p>

分野領域	成果	課題	改善の方策	学校関係者の提言
<p>1 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校教育目標「人とのつながりの中で豊かに学び自らの未来を拓く児童の育成」については、学級経営、学年経営、授業のなかで教職員が意識して取り組みを進めた。安全ボランティアや読み聞かせボランティア等の地域ボランティアの方や保護者ボランティアの方々との関わりの中で教育活動を行った</li> <li>◆保護者アンケートでは「学校は、子どもが楽しく通うことができる環境を整えている」に90%の保護者から肯定的な評価をいただいている。</li> <li>◆様々な課題が生じた場合に教育計画部会や学年ケース会議を開催し、全職員で協力体制を整えた。迅速かつ組織的に動く体制づくりを進めることができた。</li> <li>◆学校運営協議会では、「児童の学力向上に向けての取り組み」「保護者同士をつなぐ手立て」「学校の業務の仕分け」等、学校の教育課題について熟議することができた。委員から率直な提言・意見をいただき学校運営に反映させることができた。</li> <li>◆学校ホームページに月1,500~2,000のアクセスがある。保護者アンケートでは学校ホームページの情報発信に高い評価を得ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校の教育活動についての情報は発信できているが、学級の様子を知らせる取り組みは、担任によって差がある。保護者アンケートでも「学級通信でクラスの様子を伝えてほしい」という要望は高い。</li> <li>◆繁忙期の4~5月、超過勤務時間45時間を超える職員が全体の約25%いる。特定の職員が遅くまで仕事をしている実態がある。</li> <li>◆保護者アンケートで「保護者どうし、子育てについて相談し、支え合うつながりをもっと持っていきたい」に、否定的な回答をした保護者が約3割いた。</li> <li>◆個人懇談会を選択制にしたことは、保護者から一定の評価を得ているが、学校と保護者とのつながりが弱まることを危惧する声もあった。</li> <li>◆年度途中で担任が病気療養に入り、担任不在になる学級が2クラスあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆今後も情報発信を積極的に行い、学校の課題について、保護者、地域住民への理解を求め支援を得ていきたい。</li> <li>◆学校運営協議会で熟議した内容を今後も地域や保護者に広めるとともに、コーディネーターを中心にして、各部会の運営が活性化する体制を整えていく。</li> <li>◆オープン参観を追加実施する。保護者へ授業や学年・学級活動への協力依頼等を行い、保護者に子どもの様子を知っていただくとともに、保護者どうしがつながる機会にしていきたい。保護者どうしが強くつながることが子どもにとって良い教育環境を生むことを保護者にこれからも伝えていきたい。</li> <li>◆個人懇談を1学期は全員対象に行い、2学期は選択制で行う形に改善する。</li> <li>◆学級通信等による子どもの様子や学級づくりについての発信を積極的に行い、担任と保護者とのつながりを深める。</li> <li>◆効率よく業務を遂行するために、校務分掌表を見直し、教職員の分掌負担に偏りがないようにしていく。また年度途中であっても必要に応じて変更していく。</li> <li>◆「猪名川町立小学校改革プラン あい・ワクワクプラン」をもとにし、教職員が心身ともに健康で児童と向き合い、質の高い学びの環境を整えるためのカリキュラムを編成していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆子どものために、コロナ禍で希薄になった人とのつながりをもう一度つなげ直すことが必要。保護者や地域住民がつながることで、子どもたちの教育環境が良くなるのが理解されれば地域・保護者の協力が得られるのではないかと。</li> <li>◆保護者どうしがつながることで、学校全体の雰囲気・教育環境が良くなるという考え方を引き続き伝えていってほしい。</li> <li>◆学校改革が管理職のリードのもと積極的にされている。次年度のあいワクワクプランが、子どもたちや教職員にとって前向きな取り組みになることを期待する。</li> <li>◆学校の運営改革については、丁寧な説明・情報発信を続けて、理解・協力を求めていってほしい。</li> <li>◆保護者や児童の多様化等への対応について、教職員の苦労や工夫が随所に見られ、またその効果が出てきていると考える。それらの思想や考え方について、引き続き多様な広報媒体で発信するとともに、学校長自ら保護者に「語りかける」機会を設けてはどうか。</li> <li>◆保護者どうしの繋がりや醸成については、PTA等とも一層の連携を図り、より実効性のある取組等の工夫を推進していきたい。PTA学級委員の復活、学年活動を通して保護者どうしの繋がる機会を設けてはどうか。</li> <li>◆学校の課題についての情報発信は重要だが方法が難しい。保護者はペーパーレス化を求めているが、地域住民は紙形態の方が有効か？どのようにして届けたい情報を届けるのか検討が必要。</li> <li>◆コミスクの活動経費について、部会の活動運営を運営協議会に移行するためには経費をどこから得るのか、決算方法の見直しが必要。</li> <li>◆学級懇談会で給食の配膳や掃除の様子を動画で見せてくれたのが良かった。事前に動画が見れるとわかれば、懇談に参加する保護者が増えるのではないかと。</li> </ul>

分野領域	成 果	課 題	改善の方策	学校関係者の提言
2 教育計画	<p>◆運動会や音楽会は、実施形態や発表形式を工夫することで練習時間を削減できた。子ども・教職員・保護者ともに満足できる内容であった。</p> <p>◆コロナの5類移行に伴い、体育館での儀式的行事や集会活動を再開することができた。</p> <p>◆箏の体験演奏や芸術鑑賞会でのオペラ鑑賞、陶芸体験など「本物」に触れる体験活動を行うことができた。</p> <p>◆地域人材の協力を得て昔あそびや昔のくらし体験を行った。</p> <p>◆人権学習参観では、今年度初めてLGBTQの学習に取り組んだ。</p> <p>◆職員会議では、提案時間を明確にすることで予定時間内に会議を終了することが定着した。</p> <p>◆学校評価のアンケート集約を全てWEBで行い、集計事務の業務時間を削減した。</p> <p>◆WEBの欠席連絡システムを導入することで、朝の電話対応と連絡帳での欠席連絡対応を削減できた。</p>	<p>◆運動会の半日開催、内容の縮減には保護者からの一定の理解を得ているが、競争競技の実施を求める声もある。</p> <p>◆福祉体験活動が4年生に集中する等、総合的な学習や体験活動の取り組みについて、学年間の系統が十分図られていない。</p> <p>◆体育館での始業式、終業式、集会活動では、「静かに待つ」「静かに話を聞く」「静かに移動する」ができない。学校全体の大きな課題である。</p> <p>◆職員会議で、職員どうしが活発に議論し合い、提案について共通理解を一層深めていく必要がある。</p> <p>◆保護者から配布文書のペーパーレス化を求める声が多く寄せられている。</p>	<p>◆学校行事のスリム化、準備や練習にかかる時間の短縮に継続して取り組んでいく。</p> <p>◆「あい・ワクワクプラン」に基づき、標準時数を満たす範囲で各学年の授業時間の削減並びに校時表の変更を行う。それによって生み出された時間で、教材研究をはじめ、児童一人ひとりに向き合う時間を確保し、あわせて教職員の業務改善を図る。</p> <p>◆学年の系統性が確かめられる教科横断的なカリキュラム表の作成を行う。体験活動や校外学習などは、教科学習の発展的学習として位置づけるとともに、総合的な学習とも関連付けることで教育効果を上げる。</p> <p>◆人権教育参観は、今後も様々な領域の人権課題について、児童・保護者と考える機会になるように取り組んでいく。</p> <p>◆学習規律や生活規律の徹底を全校でさらに取り組んでいく。各学級での日々の授業から「聞き方」の指導を徹底するとともに、教師自身が児童の興味関心をひきつける話し方を身につけていく。</p> <p>◆職員会議では担当から検討事項を明確にした提案をすることで、活発な協議を行い、指導についての共通理解を図っていく。</p> <p>◆配布文書のメール配信等、業務の効率化と利便性を兼ね備えた改善をしていく。</p>	<p>◆学校行事の当日や練習をスリム化しながらも、児童・保護者目線を忘れずに改革してくることが大切である。</p> <p>◆学校行事をスリム化することは良いことと思うが、本来育てたい児童の精神面が疎かにならないか議論をしていきたい。</p> <p>◆白小の「あい・ワクワクプラン」が実施されるが、先生方のアンケートにもあるように子ども主体で頑張してほしい。何事も始めるときには大変だが、見直し・変更など臨機応変に進めてほしい。</p> <p>◆「あい・ワクワクプラン」については、初年度となるため、引き続き評価を綿密に行い、白金小学校の特徴を踏まえたプランにバージョンアップを図ることが重要である。</p> <p>◆体験活動や人権学習に積極的に取り組んでいただけて有難いです。</p> <p>◆保育園ではお手紙配信がされている。WEB活用が進み時間等の削減につながっているため、可能な限り活用が進むとよいと思う。</p> <p>◆集会時に騒がしくなったり、学習規律に課題があったりすると報告されている。中学校を見据えて、小学校から集団行動の規律を身につけさせていきたい。</p> <p>◆子どもに「聞く力」をつける指導に力を入れていただきたい。</p> <p>◆キャリア教育については、PTAとの連携等も有益と考えるため、取組について検討を進めていただきたい。</p>
3 学級経営	<p>◆互いの違いを認め合い「差別やいじめを許さない学級集団」の育成を目指して、児童が互いに支え合える学級づくりに取り組んだ。</p> <p>◆児童アンケート「休み時間にいっしょに話したり遊んだりする友だちはいますか」では、95.3%の児童が肯定的な回答をしている。</p> <p>◆保護者アンケート「教職員は子どもを大切に、親身になって子どもの指導を行っている。」では、8割以上の保護者から肯定的な回答を得ることができた。</p> <p>◆いじめアンケート実施後には、担任が児童全員と面談をする機会をもち、児童の個々の思いを聞き取った。児童の思いに寄り添う学級経営を行うことができた。</p>	<p>◆学習規律や生活規律の徹底を全校でさらに取り組んでいく必要がある。</p> <p>◆教職員による学級の経営力の差があり、問題行動の芽がキャッチできなかったり、初期対応でうまくいかないことがあった。</p> <p>◆保護者から「もっとクラスの様子を知りたい」という声があがっている。学級通信の発行が少ない学級があった。</p> <p>◆特性の強い児童、困り感のある児童がいじめ被害にあう事案が数件あった。</p>	<p>◆中学年での教科担任制、低学年での交換授業を追加的に実施し、複数教職員による多面的な生活・学習指導を行っていく。</p> <p>◆教室内の整理整頓に心がけ、児童が落ち着いた環境で生活できるようにする。</p> <p>◆授業のユニバーサルデザイン化を推進し、だれもが安心して学べる環境づくりに努める。</p> <p>◆教職員が一人ひとりの児童の強みを理解し、自己肯定感を高めていくことで、たがいの個性を認め合う学級集団を育成する。</p>	<p>◆複数の教職員が多面的に見守り、指導していくことは大切。教科担任制や交換授業を適宜進めていただきたい。</p> <p>◆いじめアンケート後に全員と面談しているのは素晴らしい。</p> <p>◆「クラスの様子を知りたい」という声があがっていますが、学級活動・学年活動（スポーツ大会など）を再開してみてもどうか。</p> <p>◆娘のクラスは人数が多いので先生の目が行き届くのか気になる。引き続き一人ひとりの生徒とコミュニケーションが取れる学級経営をお願いしたい。</p> <p>◆教科担任制を取り入れることは大賛成である。その方が教える側も負担が軽減するのではないと思う。全科目の下準備や様々な資料を用意するのも時間をとるのでは？子どもたちも違った先生の授業を受けることで変化が生まれると思う。</p> <p>◆大規模校であるため情報共有に苦勞されていると思う。教科担任制、交換授業の追加等、改善の方策で挙げられているよう、様々な教職員がクラスに入り、学級の風通しを良くして多面的に子どもや授業が見られるよう進めていただきたい。</p> <p>◆学級委員（または連絡係）の復活の話があったが、ぜひそうしてほしい。学級懇談会への出席やクラス行事への協力など、忙しい中でも親なら子供のために何とかしたいと思う人が必ずいるはず。希望があれば、地域の人やPTA経験者などに相談役として関わってもらうことも可能かもしれない。</p> <p>◆4年生の福祉学習に関わらせてもらった。今年は何のクラスもよく話を聞いてくれて質問もしっかりしてくれた。先生方の子どもたちへの対応も、ポイントをおさえ、普段からしっかりコミュニケーションがとられているのだなと感じた。</p> <p>◆懇談会で給食時の様子を映像で紹介するなど、非常に有益な工夫も見られる。このような好事例を教職員で共有し速やかに実践することが有効と考える。情報発信の肯定的意見の低下については、学級通信の水準向上のため、最小限のルールやフォーマットを設けてはどうか。</p>

分野領域	成 果	課 題	改善の方策	学校関係者の提言
4 学習指導	<p>◆児童アンケート「授業はわかりやすいですか」では90%以上の児童が「わかりやすい」と回答している。保護者アンケートでも「教職員は、児童にとってわかりやすい授業づくりを行っている」に90%以上の肯定的評価を得ている。</p> <p>◆グループワークやペアワークを積極的に取り入れ、主体的・対話的な学びを目指して取り組んだ。</p> <p>◆毎月の読書週間に、図書ボランティアの協力を得て読み聞かせを行った。また、各学年で「ビブリオバトル」「味見読書」などに取り組み、読書に親しむ児童が増えた。</p> <p>◆学習サポーターとして教員OBの協力を得た。5年生の算数の授業に入っていただき、個別のサポートをしていただくことで児童の学習意欲の向上につながった。「わからない」「教えてほしい」と自分から発信できる児童もでてきた。</p> <p>◆低学年の放課後学習「いなぼう学習」には地域ボランティアの協力を得た。少人数、またはマンツーマンで継続して関わっていただくことで、基礎基本の定着につながった。ボランティアの方に褒めていただくことで自己肯定感が高まった児童もいる。</p> <p>◆猪名川町独自の体力アップサポーター派遣事業により、全学年の児童が専門的な指導を受けることができた。</p>	<p>◆保護者アンケートでは「探求的な学習をしてほしい」「文章を書くことに取り組んでほしい」等の声が届いている。</p> <p>◆5年生83人の猪名川町学習到達度調査では、国語で正答率50%以下の児童は約20名、算数では約半数、算数の平均正答率は全校平均を15%以上下回る結果であった。学力向上は喫緊の課題である。</p> <p>◆教職員アンケートでは、子どもたちの学びの質を高めるために「自身の授業力を高めたい」という声が多く上がっている。教師自身が意欲的に学べる環境を整える必要がある。</p> <p>◆1年生の段階ですでに学力の差がでている。生活経験や家庭環境が影響していると思われる。</p> <p>◆個別最適な学びの観点からも、タブレット端末をはじめとするICT機器をさらに有効活用する必要性がある。</p>	<p>◆「朝の学習活動」に全校で取り組み、基礎基本の定着を図る。</p> <p>◆学習サポーター、放課後学習ボランティア等の外部人材を積極的に活用し、児童のつまづきを解消していく。</p> <p>◆スクールアシスタントの動きをさらに明確にし、低学年の学習サポート体制をさらに強めていく。</p> <p>◆カリキュラムの見直しを行い、総合的な学習の時間を「各教科の発展的な学習」と位置づけて取り組んでいく。</p> <p>◆研究担当から積極的に校外研修の参加を呼びかける。留守になる学級の自習体制を整える。また、研修内容を還流報告する校内ミニ研修を実施し、教師自身が学び合える環境づくりをする。</p> <p>◆タブレット端末等のICT機器の活用研修を今後も継続していく。</p> <p>◆外部人材の活用を効果的に取り入れ、児童の学力・体力の向上だけでなく教師の指導力向上につなげていく。</p>	<p>◆グループワークやペアワークを各授業で積極的に取り入れていることは素晴らしい。子どもたちが意見を述べるだけでなく、意見のやり取りができるよう、時間と機会を設定することを続けていただきたい。</p> <p>◆学習サポート体制は必要性を感じる。また、学習する楽しさ・達成感を味わう機会をたくさん経験させ、勉強に興味を持たせる指導を。小学校でつまずくと中学校では勉強についていけず、体調不良・不登校となっていくケースがよくある。</p> <p>◆「宿題を教えて」と言われて一緒に取り組むことがあるが、なかなか理解できないとこちらでもイライラしてしまい、思うように進まないことがある。朝の学習活動の時間を増やしていただけて有難い。</p> <p>◆「1年生の段階ですでに学力の差」については、猪名川中学校区共通の課題を明確にして、幼児期から進めていきたい。いろいろな園から入学されると思うが、公立の縦の連携を大切にしたい。</p> <p>◆タブレット端末の導入で子どもたちの学習も変化している。小学生でもスマホが生活の中で切り離せないものになってきている。扱い方は子どもたちの方が柔軟で覚えが早いのが、反面問題も多い。学習の中で、ICT・メディアリテラシーについて教えていってほしい。</p> <p>◆学力向上については重要な改善課題と考える。「朝の学習活動」等についても全校で取り組んでもらいたい。若手教員の授業力向上には引き続き取り組んでほしい。</p> <p>◆教職員、ボランティアで学習のつまづきを解消とあるが、学校側だけでがんばっても難しい。やはり家庭でのサポートが必要である。</p>
5 特別支援教育	<p>◆交流学級担任や保護者と連携を強め、児童へのより良い関わり方や対応の仕方について共通理解のもと指導にあたることができた。</p> <p>◆年間2回特別支援学級児童の課題や対応について児童交流を全教職員で行うことができた。</p> <p>◆スクールカウンセラーによる職員対象の研修会を2回開催した。「発達障害」「愛着障害」について理解を深めることができた。</p> <p>◆発達課題や困り感のある児童の保護者と保護者ケース会議を行い、5名の児童を新規で通級指導につなぐことができた。保護者と定期的にケース会議を行うことで、学校と家庭が連携して児童の支援を行えるケースが増えた。</p>	<p>◆特別支援学級児童に対するいじめ事案が発生した。</p> <p>◆特別支援学級児童への合理的配慮・短期目標・長期目標など支援学級担任と交流学級担任、専科等の授業者との間でうまく情報共有がなされていないことがあった。</p> <p>◆児童の問題行動の背景には、発達課題や家庭環境等様々な課題がある。背景をさぐり見立てる力を教師がつけていく必要がある。</p> <p>◆配慮の必要な児童は数多くいるが、まだまだ具体的な手立てが講じられていない児童がいる。</p> <p>◆家庭背景に課題のある児童が増えている。</p>	<p>◆特別支援学級児童を核とした交流学級の学級経営を実施していく。</p> <p>◆特別支援学級児童の取り組みや得意なことを交流学級で生かしているよう交流学級担任との連携を強化する。</p> <p>◆巡回教育相談を積極的に活用し相談員を講師とした研修を実施する。本校の児童の実態や実際にあるケースをもとにした研修会を開催し、教師の力量を高めていく。</p> <p>◆カウンセラーによる児童観察を更に積極的に行い、専門的な立場からの見立てや助言を仰ぎながら、児童理解に努めていく。</p> <p>◆職員室内で必要に応じて校内ケース会議が開催される環境を整える。</p> <p>◆猪名川中学校区内での保幼小中の縦の連携をさらに強化する。</p> <p>◆SCやSSWなどの専門家、町教育支援センターや町こども課、こども家庭センター等の専門機関と連携を継続していく。</p>	<p>◆課題のある児童を新規で通級指導につないだり、保護者と定期的にケース会議を実施したりと、素晴らしい実践をすすめている。今後も引き続き、周りの児童の理解を深める取り組みを進めてほしい。</p> <p>◆配慮を必要とする児童が年々増す中、やはりいろいろな方面と連携を取っていくことは必要と感じる。</p> <p>◆様々な関係機関と連携を図りながら、チームとして子どもたちをささえることが大切だと思う。大きな学校だけに本当に個別で対応する苦勞が多いと思う。家庭背景も含めて、幼小中つないでいくことが大切だと思う。</p> <p>◆スクールカウンセラーによる職員対象の研修会は、ぜひ続けてほしい。理解を深め、同じ認識をもって発達課題のある児童へ対応してほしい。</p> <p>◆川西養護学校の教育相談を積極的に利用して、子どもと保護者と教職員がうまくつながる関係を築けるよう頑張ってほしい。当事者の保護者も孤独感を抱えている。</p> <p>◆特別支援教育は引き継ぎを疎かにせず、丁寧に行うべきである。可能であれば書面だけでなく実際の教育を受けている場面を見て引継ぎしてはどうか。</p> <p>◆左記のとおりの方策で推進願いたい。</p>

分野領域	成 果	課 題	改善の方策	学校関係者の提言
6 生徒指導体制	<p>◆いじめ・不登校・問題行動等について生徒指導部会で組織的に対応することができた。</p> <p>◆保護者や児童からの相談は、担任から生徒指導担当に連絡をし、管理職に詳細を報告するなど、「報告→連絡→相談→確認」の一連の動きを組織的に行うことができた。</p> <p>◆月1回のコア会議では、SSWIに加え、SCも参加できる体制を整えた。会議では支援シートと参加者が得ている情報をもとに、課題の背景の見立て、校内ケース会議や保護者ケース会議の計画など、支援の方向性や指導の具体的な方針を協議することができた。</p>	<p>◆学習規律や生活上のルールについて教職員間の共通理解、同一指導を徹底していく必要がある。</p> <p>◆教師が児童の問題行動に気づかず、問題が悪化し解決に苦慮するケースがあった。</p> <p>◆事実確認の聞き取りは今後も迅速かつ、常に複数教職員による対応をしていく必要がある。</p> <p>◆学校全体の生活指導上の課題や各学年の児童の様子について、さらに情報を共有し協議する必要がある。</p> <p>◆不登校、不登校傾向の児童が増加傾向にある。</p>	<p>◆学習規律、生活上のルールについて、学年に応じた方法で、児童自らが話し合い、考える機会を設ける。「ルールだから」ではなく「なぜそうするのか」を児童自らが考えて、学校全体で取り組んでいく。</p> <p>◆いじめ対応マニュアルを定期的に見直し、教職員研修で理解を深め、実践力を養っていく。</p> <p>◆効率的な情報共有、記録を行うため、校務支援システムを有効に活用する。</p> <p>◆不登校児童や不登校傾向児童には、タブレット端末を活用した授業配信を積極的に行い、児童の学びを止めない適切な支援を行う。</p> <p>◆不登校になる要因のひとつに学力の課題がある。児童の基礎基本の学力定着のため朝学習の実施、教師の授業力向上に向けての研修を学校全体で取り組んでいく。</p>	<p>◆学習規律や生活上のルールについて、児童自らが考え話し合う機会を設けるという改善策には大賛成です。引き続き教職員間での情報交流や意思疎通を図っていければと思う。</p> <p>◆小学校での別室対応・支援が充実すると、少しでも不登校の児童の「ここがあるから学校に来れる」という居場所づくりになる。</p> <p>◆学習規律・生活上のルール以外にも、「なぜそうするのか」と「どう思うのか」、子どもたちが自分の意見を考えたり言える時間をぜひ増やしていただきたい。</p> <p>◆子どもに指導するにあたって、しつけの面で叱る先生が少なくなってきたと感じる。もう少し強い口調で注意してもいいのではないかとと思うことが多々ある。見守りをして子どもたちを観察していると、足で蹴ったり傘で叩いたり、カバンを思いっきり引っ張ったりと荒っぽい子が多い。保護者が注意しないのが現状かもしれないが、もし学校でそのようなことが起きたら、子どもにダメだということをきつく教えてほしい。</p> <p>◆教師の「気付きの目」を養う難しさがあると思いますが、子どもの気持ちに寄り添う努力をしていただきたい。</p> <p>◆いじめの問題は難しい。子どもたちを見ていると、ふざけているのかいじめなのか判断しがたい時がある。現場の先生も大変だと思うが、やはりしっかり見守って状況を把握するしかないと思う。</p> <p>◆問題が起こったときに、複数で情報を聞き取り、話し合い、対応を考えていくということは、時間も労力もかかるがこれからも続けてほしい。</p> <p>◆低学年から少しずつ関係を築き、問題が発生しやすい高学年に備えたい。</p> <p>◆基本は家庭での育て方である。子育てに関して勉強やあいさつなど、細かな部分で保護者が行うべきしつけを学校に押し付けている現状がある。</p> <p>◆不登校児童のオンラインによる授業参加は良い取り組みであるので継続してほしい。</p>
7 研究・研修	<p>◆校内研究では、今年度で算数科の研究を5年積み上げた。外部講師を招いた授業研究会では、児童の思考を促す授業展開、価値ある話し合い活動の場の設定について学ぶことができた。</p> <p>◆模擬授業形式で行った研究では児童の目線で授業を受けることができ、他の教員の授業方法を学ぶ良い機会となった。</p> <p>◆夏季休業中には、「ICT機器の活用」「愛着障害をもつ児童の理解」「問題行動を未然に防ぐ校内支援体制」「LGBTQ」「子どもの思考を促す板書」等、児童理解や人権課題、授業力向上についての校内研修会を行った。</p> <p>◆町教育委員会の指導主事によるMAIDO訪問の授業支援、学校教育指導員による指導を積極的に受け、各々の授業力向上について研鑽を積んだ。</p>	<p>◆授業研究を深めていくことに困難さを感じる。若手教員のモデルになるベテラン教員が少ないことが要因の一つである。</p> <p>◆タブレット端末の活用については、教職員によって差がある。授業で日常的に活用する方法をさらに学んでいく必要がある。</p> <p>◆多忙感を理由に自主的に校外研修に参加する教職員が少ない。</p> <p>◆各担当で参加した研究会や研修会の内容を還流する機会がない。</p> <p>◆児童の学力低下は本校の喫緊の課題である。</p>	<p>◆デジタルドリルを導入し、宿題や復習に活用することでタブレット端末の活用の日常化を図る。</p> <p>◆阪神地区や兵庫県の研究会だけでなく、身近にある町内小中学校の校内授業研究会にも積極的に参加し、力量を高める。良い授業、モデルとなる教員と出会う機会を増やしていく。</p> <p>◆児童の思考を促す授業を目指し、行事のスリム化などで生み出された時間で、教材研究に力を注ぐ。授業の展開だけでなく、教材・題材のねらいを深く掘り下げる研究を実施する。</p> <p>◆各担当で学んできたことを還流するミニ研修会を実施する。</p> <p>◆今後も、指導主事や学校教育指導員の指導を積極的に受けるとともに、教師が互いの授業を参観し合うことで力量を高めていく。</p>	<p>◆授業研究を積極的に進めようとしていることは非常に評価できる。これからの白金小に最も大切な研修を設定しながら、ますます学校の力を高めてほしい。</p> <p>◆身近な中学校の校内授業研究会参加等、とても良いと思う。中学校を見ることで、教員も見通しを立てて小学校で力をつけておかなければいけないことが把握しやすいと思う。</p> <p>◆ICTを活用した授業を参観すると、楽しくわかりやすく感じます。授業でも宿題でも日常化を図ることで意欲的な学習につながるのではと期待する。</p> <p>◆教職員アンケートで先生方の思いがわかり、読みやすかった。「6. 本校の児童のために私たちに必要な力は何か。」をみて、ぜひ頑張してほしいと思う。</p> <p>◆特に若手教職員に対する研修参加については、当該学校のみならず教育委員会も中心となって、例えば「入社時期が近い教職員をグループ分けし、日常の学校教育における課題共有や改善点」等をフリーで話し合うワークショップを行い、学校を超えた横の繋がりがりやモチベーションアップを図るための取組改善を図ってはどうかと考える。</p> <p>◆子どもに野球を通じて学ぶことを教えてきた。土日の試合で成果を出すのは、月からの努力です。土日に野球を教えてもらう時間だけでは上手くなりません。勉強も同じです。誰が先生になるのかは各家庭に任せるしかないでしょう。あとは自分の努力しかない。</p>

## 令和6年度 学校教育目標【案】

人とのつながりの中で豊かに学び 自らの未来を拓く児童の育成

### 【めざす学校像】

- 学ぶ楽しさが毎日味わえる学校
- 子ども自らが考え、未来を拓いていく学校
- 温かい人とのつながりのなかで、励まし支え合って進む学校
- 地域住民・保護者・教職員が力を合わせ、教育力を高める学校

### 【めざす児童像】

- 自分の良いところに気づき、友だちの個性を尊重できる子ども
- 互いの違いを認め合い、差別・いじめを許さない子ども
- 変化する社会に対応し、成りたい自分をイメージできる子ども
- 猪名川の自然・歴史・文化に興味を持ち、地域を大切にできる子ども

### 【めざす教職員像】

- 創意工夫し楽しくわかる授業を追求しつづける教職員
- 子どもを大切に、愛情あふれる教職員
- 子ども・保護者・地域住民と丁寧に対話し、美しい言葉で話す教職員
- チームで支え合う教職員

### 次年度へ向けた重点的な取り組み【案】

- ①自ら考え、話し合う力を身につけた子どもの育成
- ②学習意欲を高めるわかる楽しい授業の実施
- ③互いの違いを認め合い、差別やいじめを許さない学級集団の育成
- ④特別支援教育を充実し、ともに支え合い学び合う子どもの育成
- ⑤スピード感のある組織的な生徒指導の推進
- ⑥子どもと教職員がゆとりをもって学べる学校行事のスリム化と教育課程の改革【あいワクワプランの推進】
- ⑦保護者どうし、保護者と教職員のつながりを強める学校行事・学年行事・教育計画の工夫改善
- ⑧保護者・地域住民の更なる参画による学校教育力の強化
- ⑨学校運営協議会各部会の自主的な運営による活動の推進